

令和５年度 全国学力・学習状況調査の結果について

R5.7.31 秋田県教育委員会

概 観

- 平成１９年度の調査開始以来、連続して概ね良好な状況にある。
 - ・小学校において、各教科の平均正答率は、全国の平均正答率を上回っている。
 - ・中学校において、国語及び数学の平均正答率は、全国の平均正答率を上回っているが、英語の平均正答率は、全国の平均正答率をわずかに下回っている。
 - ・児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査の多くの質問項目で、肯定的な回答の割合が全国平均を上回っている。
- 各教科の概ね良好な状況に加え、児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査の結果には、児童生徒が望ましい生活習慣や学習習慣を身に付けている状況が表れている。
- このような状況は、“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”に示している本県の優れた教育環境によるものであり、学校、家庭、地域、大学等が手を携え、オール秋田で成し遂げられたものであると捉えている。

“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”にみる秋田の優れた教育環境

- ・児童生徒の望ましい生活習慣・学習習慣
- ・各学校における児童生徒一人一人へのきめ細かな指導と授業改善への取組
- ・学校と家庭、地域との連携・協働による質の高い教育力

- 県教育委員会では、今年度を含めた計１５回の調査結果により、これまでの施策・事業等の方向性や有効性について一定の評価ができると考えている。特に、少人数学習推進事業、県学習状況調査、各学校が共同研究体制のもと実施している授業改善の取組等は、大きな効果を発揮していると考えている。
- 今後も、教育関係者はもとより、県民の皆様の御理解と御協力をいただきながら、オール秋田で「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」を目指し、「教育立県あきた」の実現に努めていく。

調査結果の活用

- 各学校においては、提供された自校の結果を基に、成果と課題を明らかにし、指導の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の課題の解決に向けた取組を進めることになる。
- 県教育委員会では、本調査の結果を有効に活用するために、検証改善委員会を立ち上げ、これまでの課題の改善状況や今年度の結果から明らかになった課題等について詳細な分析を進め、各学校を支援していく。
- 今後も、国と県の学習状況調査及び高校入試を一体として捉えた本県独自の検証改善サイクルを更に機能させていく。具体的には、本調査で見られた課題の解決に向けて、課題改善サポート問題を作成し、各学校に提供するとともに、県学習状況調査で課題の改善状況を把握する。また、高校入試においても、思考力・判断力・表現力等を用いて解決する問題を出題するなどし、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に努めていく。

教科に関する調査の結果

◆概 要

- 本県の平均正答率は、小学校国語、算数、中学校国語、数学において全国平均を上回っており、概ね良好な状況である。
- 中学校英語においては、全国平均をわずかに下回っている。
- 小・中学校ともに、多くの問題（小：93.3%、中：61.7%）において、本県の平均正答率は全国平均を上回っている。
- 小・中学校ともに、ほぼ全ての問題（小：100%、中：97.9%）において、無解答率が全国平均以下になっている。
- 正答率が十分ではない問題については、指導の改善・充実を図り、学習内容を定着させていく必要がある。

◆平均正答率 [%]

※（ ）内の数値は全国比

年度	小 学 校 6 年 生			中 学 校 3 年 生			
	国語	算数	理科	国語	数学	理科	英語
R5	72 (+5)	65 (+2)		74 (+4)	52 (+1)		44 (-2)
R4	71 (+5)	66 (+3)	71 (+8)	73 (+4)	54 (+3)	52 (+3)	
R3	71 (+6)	72 (+2)		68 (+3)	60 (+3)		
H31 (R1)	74 (+10)	70 (+3)		78 (+5)	65 (+5)		57 (+1)

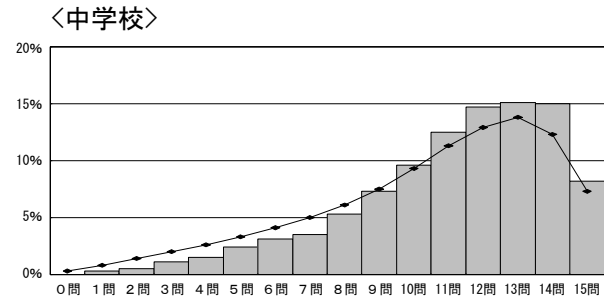
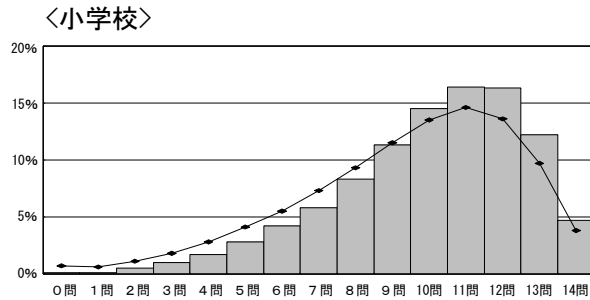
	国語A (知識)	国語B (活用)	算数A (知識)	算数B (活用)	理科
H30	77 (+6)	61 (+6)	67 (+3)	57 (+5)	66 (+6)
H29	80 (+5)	64 (+6)	84 (+5)	50 (+4)	
H28	77 (+4)	64 (+6)	82 (+4)	52 (+5)	
H27	76.0 (+6.0)	76.4 (+11.0)	81.2 (+6.0)	51.5 (+6.5)	66.7 (+5.9)
H26	77.4 (+4.5)	67.3 (+11.8)	85.1 (+7.0)	66.2 (+8.0)	
H25	71.7 (+9.0)	59.1 (+9.7)	82.8 (+5.6)	67.1 (+8.7)	
H24	86.9 (+5.3)	63.0 (+7.4)	79.5 (+6.2)	64.0 (+5.1)	68.4 (+7.5)
H22	89.3 (+6.0)	84.8 (+7.0)	83.2 (+9.0)	59.0 (+9.7)	
H21	75.3 (+5.4)	60.4 (+9.9)	86.2 (+7.5)	63.7 (+8.9)	
H20	74.4 (+9.0)	62.9 (+12.4)	80.7 (+8.5)	58.9 (+7.3)	
H19	86.1 (+4.4)	69.0 (+7.0)	88.4 (+6.3)	68.6 (+5.0)	

	国語A (知識)	国語B (活用)	数学A (知識)	数学B (活用)	理科
	80 (+4)	66 (+5)	70 (+4)	51 (+4)	70 (+4)
	82 (+5)	78 (+6)	68 (+3)	52 (+4)	
	79 (+3)	72 (+5)	67 (+5)	48 (+4)	
	80.8 (+5.0)	70.7 (+4.9)	68.4 (+4.0)	46.9 (+5.3)	59.6 (+6.6)
	84.4 (+5.0)	55.8 (+4.8)	73.0 (+5.6)	65.5 (+5.7)	
	81.9 (+5.5)	74.6 (+7.2)	68.9 (+5.2)	47.5 (+6.0)	
	79.7 (+4.6)	70.3 (+7.0)	67.4 (+5.3)	56.7 (+7.4)	56.1 (+5.1)
	79.8 (+4.7)	71.7 (+6.4)	70.8 (+6.2)	50.0 (+6.7)	
	82.3 (+5.3)	81.8 (+7.3)	68.8 (+6.1)	63.4 (+6.5)	
	78.6 (+5.0)	66.8 (+6.0)	70.1 (+7.0)	54.7 (+5.5)	
	85.4 (+3.8)	77.0 (+5.0)	77.5 (+5.6)	65.3 (+4.7)	

- * 各教科の平均正答率は、当該教科における設問ごとの正答率の平均として求めた値と同じといえます。
- * 令和2年度調査は、新型コロナウイルス感染症の影響等を考慮し、実施されませんでした。
- * 平成31年度（令和元年度）から、従来のA問題（知識）とB問題（活用）を一体的に問う調査問題で実施されています。
- * 平成31年度（令和元年度）及び令和5年度の中学校英語の調査結果は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」を集計したものです。
- * 全国比は、文部科学省が公表した全国平均正答率を四捨五入し、整数値として算出しています。
- * 都道府県別の平均正答率は、文部科学省が平成28年度から整数値で公表しています。
- * 平成22年度、平成24年度の平均正答率については、文部科学省から抽出調査における誤差も含めた「平均正答率の95%信頼区間」が公表されており、その区間の中央値を示しています。

各教科の成果と課題

【国語】 棒グラフ：秋田県、折れ線グラフ：全国（横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合）



◇平均正答率 [%]

※ () 内の数値は全国比

		全体	学習指導要領の内容						問題形式		
			知識・技能			思考・判断・表現			選択式	短答式	記述式
			(1)	(2)	(3)	A	B	C			
小学校	秋田県	72	74.4	66.5		80.1	30.1	76.6	77.2	67.6	58.2
	全国	67.2	(+3.2)	(+3.1)		(+7.5)	(+3.4)	(+5.4)	(+3.6)	(+4.9)	(+7.1)

		全体	学習指導要領の内容						問題形式		
			知識・技能			思考・判断・表現			選択式	短答式	記述式
			(1)	(2)	(3)	A	B	C			
中学校	秋田県	74	70.8	66.3	83.3	86.4	65.9	68.4	75.4	71.6	74.5
	全国	69.8	(+3.3)	(+2.9)	(+8.6)	(+4.2)	(+2.7)	(+4.7)	(+2.3)	(+6.0)	(+6.5)

(1)言語の特徴や使い方にに関する事項 (2)情報の扱い方にに関する事項 (3)我が国の言語文化に関する事項 A話すこと・聞くこと B書くこと C読むこと

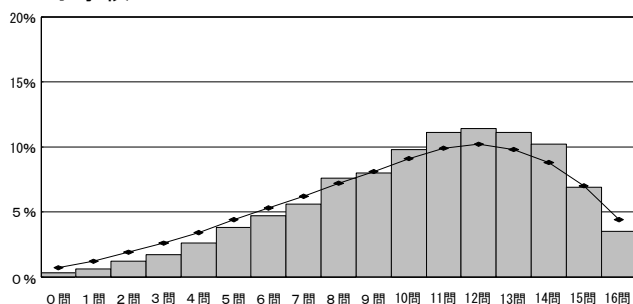
- 平均正答率は、小学校で5ポイント程度、中学校で4ポイント程度、全国平均を上回っている。
- 「A話すこと・聞くこと」及び「C読むこと」において、小学校では5ポイント以上、中学校では4ポイント以上、全国平均を上回っている。
- 小学校では、図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように文章を書くことや、敬語の理解に課題が見られる。
- 中学校では、文脈に即して漢字を正しく書くことや、文章の構成や展開、表現の効果について、具体的な表現を根拠にして考えることに課題が見られる。

●指導の改善が求められる問題

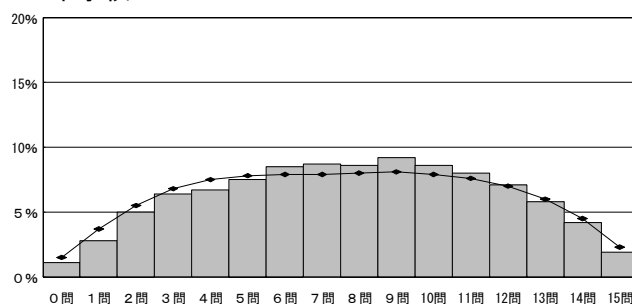
	問題番号	平均正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
		秋田県	全国		
小学校	1二	30.1	26.7	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く。	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。
	3三	59.0	57.6	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する。	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる。
中学校	3二	48.8	43.9	漢字を書く。(おし量って)	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。
	4三	56.3	50.0	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く。	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる。

【算数・数学】 棒グラフ：秋田県、折れ線グラフ：全国（横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合）

＜小学校＞



＜中学校＞



◇平均正答率 [%]

※（ ）内の数値は全国比

		全体	学習指導要領の領域				問題形式		
			A数と計算	B図形	C変化と関係	Dデータの活用	選択式	短答式	記述式
小学校	秋田県	65	69.1	50.0	71.7	73.1	60.7	76.3	50.9
	全国	62.5	(+1.8)	(+1.8)	(+0.8)	(+7.6)	(+3.0)	(+1.6)	(+3.6)
		全体	学習指導要領の領域				問題形式		
			A数と式	B図形	C関数	Dデータの活用	選択式	短答式	記述式
中学校	秋田県	52	64.7	32.6	52.8	49.2	43.0	63.8	45.1
	全国	51.0	(+1.7)	(-0.6)	(+1.6)	(+0.7)	(-2.3)	(+1.2)	(+3.5)

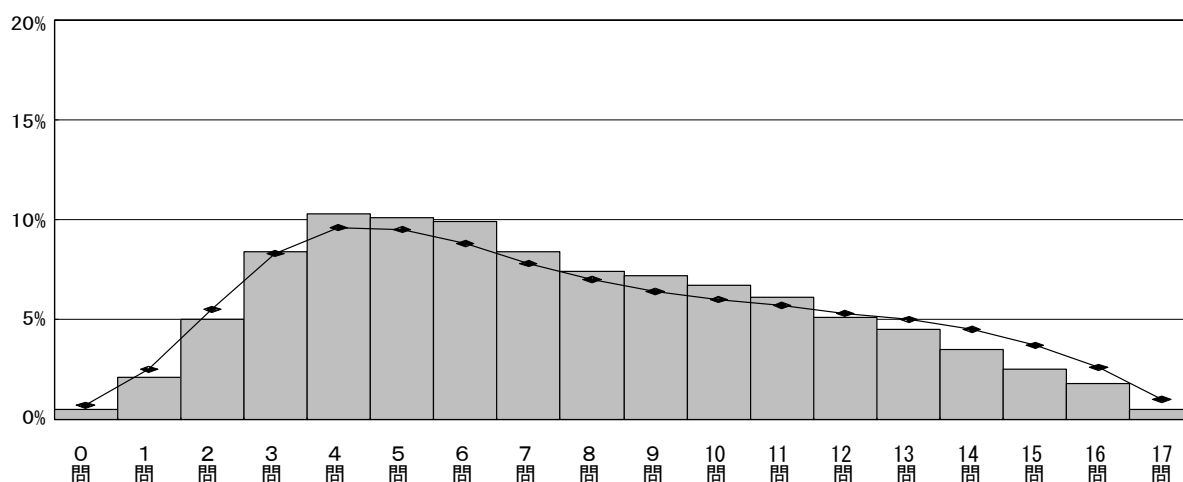
- 平均正答率は、小学校で2ポイント以上、中学校で1ポイント程度、全国平均を上回っている。
 ○小学校では、「Dデータの活用」の領域において7ポイント以上、全国平均を上回っている。中学校では、「A数と式」の領域において2ポイント程度、全国平均を上回っている。
 ●小学校では、正三角形の意味や性質について理解することや、(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることに課題が見られる。
 ●中学校では、自然数の意味を理解することや、空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解することに課題が見られる。

●指導の改善が求められる問題

	問題番号	平均正答率(%)		問題の概要	出題の趣旨
		秋田県	全国		
小学校	②(3)	23.5	24.9	切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く。	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる。
	③(4)	47.3	47.6	66÷3の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ。	(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる。
	④(1)	46.2	46.0	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ。	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる。
中学校	①	41.8	46.1	-5、0、3、4.7、9の中から自然数を全て選ぶ。	自然数の意味を理解しているかどうかをみる。
	③	28.1	30.4	空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ。	空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる。
	⑧(2)	59.8	61.7	二人の選手のグラフが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ。	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる。

【英語】 棒グラフ：秋田県、折れ線グラフ：全国 （横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合）

〈中学校〉



◇平均正答率 [%]

※（ ）内の数値は全国比

	全体	学習指導要領の領域				問題形式		
		聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	選択式	短答式	記述
秋田県	44	56.5		51.5	20.2	54.0	26.1	11.5
全 国	45.6	(-1.9)		(+0.3)	(-3.2)	(-0.8)	(-4.0)	(-2.0)

※全体の平均正答率は、「話すこと」を除く3つの領域の合計を集計。「話すこと」の結果については、都道府県別、指定都市別の公表は行われない。

- 「読むこと」の領域において、社会的な話題について書かれた短い文章の要点を読み取る問題の正答率が全国平均を上回っている。
- 「聞くこと」及び「書くこと」の領域において、平均正答率が全国平均をやや下回っている。
- 文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書くことや、日常的な話題について事実や自分の考えなどを整理して、まとまりのある文章を書くことに課題が見られる。

●指導の改善が求められる問題

問題番号	平均正答率 (%)		問 題 の 概 要	出 題 の 趣 旨
	秋田県	全 国		
2	54.3	61.1	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する。	日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる。
8(2)	16.3	19.5	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く。	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる。
9(1) ②	14.4	20.9	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる。	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる。
10	6.6	7.4	学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く。	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる。

児童生徒質問紙調査の結果

※数値は「している」「どちらかといえば、している」等、肯定的な回答の割合（％）
（ ）内の数値は、肯定的な回答のうち「している」等と回答した割合（％）

【生活習慣】

○全体として、望ましい生活習慣が定着していると考えられる。

質 問 事 項	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
朝食を毎日食べていますか。	95.2 (86.2)	+ 1.3 (+ 2.5)	94.6 (84.2)	+ 3.4 (+ 5.6)
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	92.9 (59.3)	+ 2.4 (+ 4.2)	94.3 (63.3)	+ 3.0 (+ 8.5)

【学習習慣】

○家庭学習に主体的に取り組むなど、望ましい学習習慣が定着していると考えられる。

質 問 事 項	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	85.7 (44.5)	+15.0 (+15.8)	70.6 (26.6)	+15.6 (+11.3)
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。	(30分以上) 94.0	+10.0	(1時間以上) 73.6	+ 7.8

【豊かな人間性等】

○自己肯定感や他の人を思いやる心が醸成されている様子が見えてくる。
○友達関係に対する満足感や日常生活における幸福感を抱いている様子が見えてくる。

質 問 事 項	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
自分には、よいところがあると思いますか。	87.1 (43.7)	+ 3.6 (+ 1.1)	84.9 (41.0)	+ 4.9 (+ 3.8)
人が困っているときは、進んで助けていますか。	93.4 (49.7)	+ 1.8 (+ 4.1)	92.7 (48.4)	+ 4.6 (+10.0)
友達関係に満足していますか。 [新規]	91.5 (65.6)	+ 1.2 (+ 2.4)	91.0 (60.6)	+ 2.3 (+ 5.3)
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。 [新規]	92.1 (51.0)	+ 1.1 (+ 1.1)	88.5 (44.7)	+ 1.7 (+ 3.8)

【地域との関わり等】

○地域への関心や地域のことを知ってもらいたいという意欲があることがうかがえる。

今住んでいる地域の行事に参加していますか。	69.8 (35.7)	+12.0 (+11.4)	46.1 (19.1)	+ 8.1 (+ 6.9)
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。 [新規]	87.4 (47.7)	+10.6 (+14.5)	80.4 (33.8)	+16.5 (+14.2)
日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか。	86.1 (56.0)	+ 8.0 (+10.3)	77.8 (39.3)	+14.6 (+13.1)

【授業等の教育活動】

- 課題解決に向けて、児童生徒が、自ら考え主体的に活動に取り組むことや、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができている。
- 児童生徒の実態に応じた学習活動が取り入れられていることがうかがえる。
- 多くの児童生徒が、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているという意識をもっている。
- 児童生徒が学習の有用性を感じながら学んでいる様子がうかがえる。
- 英語の授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で表現する言語活動に取り組んでいると回答した生徒の割合が、全国の平均を上回っている。
- 英語の授業以外で、児童生徒が英語に触れる機会が少ないことがうかがえる。

質 問 事 項	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
前学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	84.2 (35.8)	+ 5.4 (+ 5.3)	86.6 (38.0)	+ 7.4 (+ 7.6)
前学年までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。	89.4 (46.6)	+ 6.5 (+ 9.3)	84.9 (33.3)	+10.0 (+10.7)
学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。	85.9 (42.8)	+ 4.1 (+ 4.2)	88.4 (47.1)	+ 8.7 (+12.8)
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	85.7 (39.7)	+ 8.3 (+ 8.7)	80.1 (33.1)	+10.9 (+10.0)
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	95.6 (71.4)	+ 2.8 (+ 7.0)	92.9 (63.0)	+ 4.2 (+10.7)
算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	95.7 (78.2)	+ 2.4 (+ 5.2)	83.8 (49.1)	+ 8.0 (+10.3)
英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。			88.8 (64.6)	+ 1.3 (+ 2.2)
これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか。	36.8 (21.4)	- 9.7 (- 6.9)	26.2 (10.9)	- 3.8 (- 1.8)
家庭学習の課題（宿題）として、どの程度ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使用して、英語の音声の聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか。 [新規]	(週 1 回以上) 17.2 -12.3		(週 1 回以上) 16.8 - 6.1	
前学年までに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか。			72.5 (33.5)	+ 8.7 (+ 7.3)
前学年までに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか。			86.4 (51.5)	+ 5.7 (+ 9.8)

【ＩＣＴを活用した学習状況】

- ＩＣＴ機器の活用頻度は、児童生徒ともに全国の平均をわずかに下回っているが、ほとんどの児童生徒が学習の中でＩＣＴは役立つと考えている。

質 問 事 項	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
前年度までに受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、どの程度使用しましたか。	(週 1 回以上) 83.5 - 2.8		(週 1 回以上) 86.3 - 1.2	
学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。	97.4 (76.1)	+ 2.3 (+ 8.6)	96.0 (67.5)	+ 2.7 (+ 8.8)

学校質問紙調査の結果

※数値は「よく行った」「どちらかといえば、行った」等、肯定的な回答の割合（％）
（ ）内の数値は、肯定的な回答のうち「よく行った」等と回答した割合（％）

【授業等の教育活動】

- 地域に根ざしたキャリア教育の取組を通して、児童生徒が自分の将来の姿を意識できるようにしている。
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて学習過程を工夫し、問題解決のプロセスを重視した探究型授業の充実を図っている。
- 各教科等で身に付けたことを、ほかの教科の学習や日常生活などでも意図的に使う機会を設けることで、生きて働く知識等の定着につなげている。
- 家庭学習の取り組み方の指導について、肯定的な回答のうち「よく行った」と回答した学校の割合が全国平均を大きく上回っており、学校全体での具体的な指導を通して習慣化につなげている。

質 問 事 項	小 学 校		中 学 校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか。	94.3 (32.2)	+ 7.8 (+11.8)	99.0 (49.5)	+ 0.4 (± 0.0)
前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。	89.2 (16.9)	+ 0.2 (－ 4.0)	93.5 (18.7)	+ 5.8 (－ 0.9)
前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。	88.7 (15.8)	+ 3.1 (－ 2.5)	88.8 (15.0)	+10.2 (+ 1.0)
言語活動について、国語を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか。 [新規]	98.9 (40.7)	+ 3.3 (+ 0.2)	99.0 (41.1)	+ 5.6 (+ 7.8)
国語の授業において、前年度までに、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行いましたか。 [新規]	93.8 (27.7)	+ 1.4 (－ 4.3)		
国語の授業において、前年度までに、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行いましたか。 [新規]				
算数（数学）の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。	97.7 (25.4)	+ 5.6 (－ 1.4)	93.5 (18.7)	+ 5.5 (－ 3.4)
学校として外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか。	81.9 (10.7)	+10.1 (－ 4.5)		
英語の授業において、前年度までに、自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動を行いましたか。				
前年度までに、家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。	98.9 (65.0)	+ 8.1 (+25.4)	96.3 (45.8)	+11.7 (+16.1)
前年度までに、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか。	99.4 (65.5)	+ 3.7 (+21.5)	98.2 (47.7)	+ 7.3 (+16.8)

【ＩＣＴを活用した学習状況】

- ＩＣＴ機器の使い方を学ぶ研修機会や、ＩＣＴ機器の活用に関して技術的にサポートする体制の充実が図られており、授業においてＩＣＴ機器を活用する学校の割合が高まってきている。
- 児童生徒が自分で調べる場面において、週１回以上使用させていると回答した学校の割合が、全国の平均を上回っている。
- 児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において、週１回以上使用させていると回答した学校の割合が、全国の平均を下回っている。
- 児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどの端末を、日常的に家庭に持ち帰って活用させる取組をしていると回答した学校の割合は、全国の平均を大きく下回っている。

質 問 事 項	小 学 校		中 学 校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
教員がコンピュータなどのＩＣＴ機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか。	97.7 (61.0)	+ 1.8 (- 4.1)	91.5 (55.1)	± 0.0 (+ 0.8)
コンピュータなどのＩＣＴ機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか。 [新規]	90.9 (33.3)	+ 3.5 (- 4.4)	82.3 (37.4)	- 0.2 (+ 6.6)
前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、授業でどの程度活用しましたか。	(週１回以上) 98.9	- 0.1	(週１回以上) 99.1	+ 1.4
児童生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させていますか。	(週１回以上) 95.0	+ 0.1	(週１回以上) 91.6	+ 0.6
児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させていますか。	(週１回以上) 62.1	-14.3	(週１回以上) 75.8	- 0.4
児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。	(毎日～時々) 45.1	-36.2	(毎日～時々) 42.0	-34.9

【家庭や地域との関わり】

- 家庭や地域との連携を緊密にして児童生徒を育てることがうかがえる。

質 問 事 項	小 学 校		中 学 校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか。	93.8 (32.8)	+ 7.1 (+ 8.0)	86.9 (19.6)	+ 3.7 (+ 0.5)
コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか。 [新規]	92.7 (26.0)	+ 6.6 (- 1.3)	86.0 (29.9)	+ 6.7 (+10.5)

全国学力・学習状況調査結果の活用

◆概 要

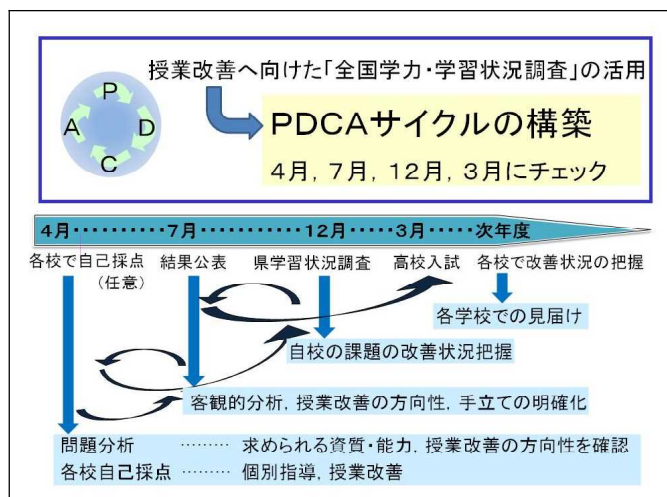
- ほとんどの学校が、全国学力・学習状況調査の自校の分析結果を全職員で共有するなどして、学校全体で活用している。
- 全国学力・学習状況調査の結果を県独自の学力調査の結果と併せて分析し、指導の改善等に活用していることについて、肯定的な回答をした学校の割合が全国平均を上回っており、学力向上に向けた検証改善サイクルの機能を効果的に生かしている状況が見られる。
- 全国学力・学習状況調査の結果分析から得られた成果や課題を、近隣の小・中学校と共有している学校の割合が全国に比べて高い。

◎学校質問紙調査結果より

※数値は「よく行った」「どちらかといえば、行った」等、肯定的な回答の割合（％）
（ ）内の数値は、肯定的な回答のうち「よく行った」等と回答した割合（％）

質 問 事 項	小 学 校		中 学 校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
令和４年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。	99.4 (39.5)	+ 3.4 (+ 6.4)	97.2 (28.0)	+ 4.2 (+ 3.3)
全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか。	97.8 (44.1)	+ 5.6 (+12.3)	95.4 (29.0)	+ 7.3 (+ 5.0)
令和４年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校（小学校）と成果や課題を共有しましたか。	70.0 (15.8)	+16.4 (+ 0.8)	56.1 (17.8)	+ 1.4 (－ 0.5)
令和４年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか。（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む。）	89.8 (20.3)	+ 1.8 (－ 2.5)	75.7 (16.8)	－ 5.4 (－ 3.7)

○県教育委員会は、調査を有効に活用し、全国学力・学習状況調査、県学習状況調査及び高校入試を一体として捉えた検証改善サイクルを機能させることで、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に向けた各学校の取組を支援しています。



☆学力向上関連事業等

◆これまでの主な事業等

- 少人数学習推進事業〔少人数学級、ティーム・ティーチング等による少人数授業〕
(H13～)
- 学習状況調査事業 (H14～)
- 教育専門監の配置 (H17～、義務教育課はH18～)
- 秋田わか杉っ子 学びの十か条 (H20～)
- 秋田わか杉 七つの「はぐくみ」 (H27～)
- 算数・数学学力向上推進事業 (H17～22)
- 学力向上推進事業 (H23～)
- “「問い」を発する子ども”の育成のための指針の作成 (H24)
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善充実事業 (H30、R1)

◆今年度の事業等

- 少人数学習推進事業
 - ・小学校第1学年から中学校第3学年までの全ての学年で少人数学習を実施
- 学力向上推進事業
 - (1) 学習状況調査事業
 - (2) あきたの教育力充実事業
 - ①学校訪問指導
 - ②学力向上支援Web・学習ポータルサイト
 - ③理数才能育成プロジェクト
- ICTを活用した秋田の教育力向上事業
 - (1) ICTを活用した授業改善支援事業
 - (2) 検証改善委員会
 - (3) オンライン・ミーティング
- キャリア教育実践研究事業
 - ・キャリア教育実践研究協議会
- AKITAグローバル人材育成事業
 - (1) 発信力強化プロジェクト
 - (2) グローバルコミュニケーションプロジェクト
 - (3) 指導力向上プロジェクト

資料 1

本県における全国学力・学習状況調査への参加概況

○小学校

- ・参加校数 178校（内訳：市町村立176、特別支援学校1、秋田大学教育文化学部附属1）

※すべての学校が令和5年4月18日に調査を実施

- ・参加児童数（令和5年4月18日に調査を実施した人数）

	公 立	秋大附属
国 語	6, 148 人	(87 人)
算 数	6, 146 人	(87 人)

※公立の学校のうち、特別支援学校の児童は1人

※秋田大学教育文化学部附属小学校については、実施予定人数

○中学校

- ・参加校数 108校（内訳：県立3、市町村立102、特別支援学校2、秋田大学教育文化学部附属1）

※すべての学校が令和5年4月18日に調査を実施

- ・参加生徒数（令和5年4月18日に調査を実施した人数）

	公 立	秋大附属
国 語	6, 395 人	(126 人)
数 学	6, 397 人	(126 人)
英 語	6, 390 人	(126 人)

※公立の学校のうち、特別支援学校の生徒は2人

※秋田大学教育文化学部附属中学校については、実施予定人数

文部科学省から県教育委員会に提供されている本資料における結果（平均正答率等）は、秋田大学教育文化学部附属小・中学校を除く、公立学校分である。

※英語「話すこと」調査については、令和5年4月18日～5月26日の期間に、文部科学省C B Tシステム（M E X C B T：メクビット）を用いたオンラインの音声録音方式で実施。都道府県別の音声データの登録数等は非公表。

資料 2



秋田わか杉 七つの「はぐくみ」

- 一 早寝早起き朝ごはん
生活リズムは全ての基本
- 二 元気なあいさつ 明るい返事
規則約束守るわか杉
- 三 読んで話して書いて高める
「問い」を発する思考力
- 四 問題解決 子どもが主体
授業の続きは家庭で学習
- 五 職場体験 インターンシップ
地域で育む子どものキャリア
- 六 学校や地域の話題で語り合い
将来の夢家族でえがく
- 七 ふるさとを支える自覚と志
みんなで作る未来の秋田

※本県の未来を担う子どもたちを「わか杉」と呼んでいます。

“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”の作成の経緯、基本的な考え方

県教育委員会では、平成27年度に“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”を作成いたしました。

全国学力・学習状況調査（文部科学省）において、全国トップレベルを維持している本県の学力やその基盤となる様々な要因については、全国からはもちろんのこと、海外からも注目されるところとなりました。

「第3期あきたの教育振興に関する基本計画」を策定し、「教育立県あきた」の実現を目指す今、児童生徒質問紙調査等から見える児童生徒を主体とした授業づくり、家庭学習の習慣、家庭や地域の教育力等、本県の財産とも言えるオール秋田でつくるすばらしい教育環境を“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”として発信し、「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」を目指したいと考えております。